



## あるコラムから

6月2日（木）秋田魁新報の“きょうの言葉”という欄に、美術家の篠田桃紅（しのだとうこう）氏の「無駄にこそ、次のなにかが兆しています」という言葉に対する翻訳家の矢口誠氏のコラムが掲載されていました。本校の生徒会テーマである“兆”と同じ言葉が目につきましたので紹介したいと思います。

水墨の抽象画で知られた美術家の篠田桃紅（1913～2021）は、「人は、用だけを済ませて生きてると、真実を見落とししてしまいます」と言う。「用」とはつまり、やらねばならない義務のことだ。用を足しているときの人間は、目的を遂行することだけに気を取られているため、思いがけない人生のヒントやアイデアが目の前にあっても、気付くことができない。

これは私自身にも経験がある。暇つぶしのために買ったレコード店で古いビデオの棚を眺めていて翻訳小説の企画を思いついたり、インターネットで怪獣映画の情報を漫然と探して未訳の面白そうな純文学作品を見つけたりと、無駄な行為が貴重な出会いを生んでくれたことは数えきれない。すべき用事が最初から決まっているときは、たとえ同じ物が視野に入っても、好奇心の触手を伸ばすことは難しい。

「どの時間が無駄で、どの時間が無駄でなかったのか、分けることはできません。なにも意識せずに無為にしていた時間が、生きていくのかもしれない」と篠田は言う。

損得や実益だけを追求していると見逃してしまうものが、この世の中にはそこらじゅうに転がっているのである。

“用を足す”つまり自分に与えられた義務は責任をもって果たさなければならないのですが、義務から解放され余裕がある時間にこそ、新たな事を始めるためのヒントが潜んでいるということのようです。

また、自分の行動を損得や難楽を基準に決めて、いつも得することや楽なことばかりをし、損なことや難儀なことを避けていると、自分自身の成長の兆しに気付かなかったり、自分自身を成長させてくれるチャンスを逃したりしてしまうよということを言っているのだとも感じました。

## 郡総体抽選会が行われました

6月3日（金）、17日（金）から開催が予定されている大曲仙北中学校総合体育大会の全競技の抽選会が行われました。（詳細につきましては追ってお知らせします）

対戦相手が決まり、子どもたちのヤル気が更に高まっています。残す時間は限られていますが、この時間の中でどれだけ自分や自分たちのチームの力を普通に発揮するための準備を整えることができるかが、大きなポイントになります。ご家庭でも、食事の面や生活時間の面でのご支援をお願いいたします。

大会に参加する選手の皆さんには、しっかり食べてしっかり寝るといった基本的なことを自己管理してほしいと思います。残された準備時間は、全ての学校の選手に平等です。

なお、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、全ての競技で一般の方々が入場できないこととなりますが、同居の家族の方々には選手の勇姿をご覧いただけるよう準備が進められています。各会場の状況により、一部入場人数や時間が制限される場合もありますが、選手の安全を第一に考えた対策になりますのでご理解とご協力をお願いいたします。詳細につきましては、この後、各部活動担当から連絡されます。

## 朝の出来事②

6月2日（木）中間テストの日は、登校時間帯は快晴、午後からは雷雨の天気予報でした。朝、小倉門で生徒を迎えていると、しっかりと傘を手に登校してくる生徒がいました。傘を手にしている生徒の中にも、自分で天気予報を確認して持ってきた生徒、家族に促されて持ってきた生徒それぞれだったと思います。帰りの天気など全く頭になく、晴れているので自転車できた生徒、傘は持たないで歩いてきた生徒、午後は雨が降りそうだからと、いつもは自転車だけれど車で送ってもらった生徒などなど、朝の登校だけを見ても多種多様です。登下校は全ての生徒にとって自分事ですので、その日の天気予報や週間天気予報を確認して、自転車・徒歩・車での送迎等どれがよいのかを判断・自己決定し、傘やカップを持ったり、必要であれば家族に車での送迎を自分からお願いしたりできるようになってほしいと思います。それが自律への第一歩であり、毎日の登下校には自律心を磨くためのチャンスが満載です。